

「全鍍連」 2023年 2月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 堀口 研一（上毛電化(株) 代表取締役）

「四十の手習い」

体力の衰えを感じ始めた40代半ばに何か新しいことにチャレンジしてみようと思った。ゴルフやマラソン、登山、将棋など趣味はそれなりにあるのだがコロナ禍をきっかけにどれも中途半端になってしまった。趣味を増やすことでもう一度人生に新たな情熱の火を灯らせたかったのだ。

飽きっぽい性格なので途中で放り出さない為に新たな趣味は以下の3つを満たすものに決めることにした。

- ① これまでの人生で一度も興味をもったことがないもの
- ② 期限があるもの
- ③ 達成した証拠がのこるもの

基準を設けてみたもののいざ探し始めるとなかなかこれだと思うものが思い浮かばずいたずらに過ぎる時間にもったいなさを感じはじめていた。そんな矢先に出会ったのが大型バイクだ。通勤中の私の車の脇を颯爽とすり抜けていく大きなバイクとそれに跨る女性ライダーの堂々たる姿。女性の背中がとても大きく見えた。これだっ！！と思った。母親にバイクは危ないから乗っちゃダメよと擦りこまれて育ったせいかわれまでの人生でバイクには1ミリも興味を持ったことがない。バイクを乗るには免許が必要だが教習には教習期限がある。しかも検定に合格すれば頑張ったご褒美に免許がもらえる。当初掲げた基準をバッチリ満たしているではないか！

情熱が冷めないうちにとさっそくその日の仕事帰りに教習所の入所手続きを済ませた。どうせ取るならと欲張って大型二輪を選んだ。その後バイクショップでヘルメットやグローブなどを購入し、これで背水の陣は整った。自転車もたいして乗ったことのない自分に果たして大型バイクの免許が取得できるのか不安と期待が入り混じった久々の感覚にワクワクしていた。

おっさんが補修ばかり受けていたのではいい笑いものだと思われながら教習のカリキュラムはすべて一発でクリアしたいと思った。まだまだ若いと思っていた私も二輪車の教習ではいつも最年長だったので若い子に負けたくない一心でモチベーションを保ち予習・復習を怠らなかつた。教習所でもらうテキストにアンダーラインや付箋を貼っていたのは見渡す限り私だけだったのでちょっぴり恥ずかしかったがこれまで知らなかつたことを真剣に勉強するのはなんだか新鮮で清々しい気持ちだった。普段は車で走りなれた道や信号もバイクではルールが異なることがあり頭がこんがらがることもあつた。でも楽しかつた。月の輪自動車教習所の公式YouTubeチャンネル「教習人間 バタイダーZ」には随分とお世話になつた。各課題を非常に丁寧に解説してくれており私の最大の敵である「一本橋」という課題の解説動画は何度も観て参考にさせてもらった。月の輪というくら

いだからおそらく北海道にあるのだろう。いつか北海道にツーリングに行った際にはこの教習所を聖地巡礼してみようと思っている。

最初はおっかなびっくりだったバイクだが松嶋菜々子の Uber Eats の CM 中のセリフ「風を感じて走るわよ」を体感する余裕がすぐ生まれた。こんなに楽しいものをなぜもっと早く始めなかったのだろうかと後悔すらしした瞬間だ。

卒業検定は 20 代と思いき今どきの若者と 2 人で受検した。私が先だったので緊張する間もなく始まってしまい苦手的一本橋も無事にこなして落ち着いて全ての課題をクリアし無事合格することができた。20 代の受検者はというととても落ち着いて運転できていたがなんと不合格。私までどうして？と驚いてしまった。どうやら直線道路でのスピードが遅すぎた為らしい。一本橋の失敗は即失格ということは知っていたがまさか直線でのスピードが遅過ぎても失格とは知らなかったので私も肝を冷やした。

今はどんなバイクを購入しようかカタログを見たりお店を回ったりバイク好きの友人の話を聞いたりしてバイク選びの楽しさを日々満喫している。

四〇の手習い、チャレンジして良かったとしみじみと思う。この良い思い出をバネに次は五〇の手習い、そして本命の六〇の手習いにもチャレンジできる活力に満ちた人生を送りたい。